

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

ピア・サポートに関する研修プログラムの改訂

ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月 伸哉

がん感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長

A. 目的

平成 23～25 年度に実施された厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」で、ピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成研修テキスト（がんサロン編・ピア・サポーター編）が作成されたが、すべての都道府県でピア・サポーター養成研修が行われていないこと、ピア・サポート活動の受け入れが進んでいないことを受け、全国に展開できるピア・サポーター養成プログラムを開発することである。

B. 経過

ピア・サポート活動が広まっていない背景として様々な要因が「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書(平成 28 年 9 月総務省)」に指摘されている。また、ピア・サポートを全国展開に関する規定は、がん診療連携拠点病院指定要件のみである。改訂委員会よりピア・サポート研修全国展開のスキームを以下のように提案された。

- ・各都道府県でピア・サポーター養成を行う
- ・要請されたピア・サポーターは各施設等でピア・サポート活動を実施する

上記提案を受け、ピア養成研修ワーキンググループでは、行政機関・がん診療連携拠点病院にピア・サポート養成のインセンティブ、もしくは強制力が働いた場合を想定した研修プログラムを開発することとした。これらを踏まえ、以下の方針でプログラム開発を行った。

- ・すでに一定程度普及されている平成 23～25 年度厚生労働省委託事業で開発されたテキスト、研修プログラムから大きく逸脱しないプログラムとし、既存の資料で利用できるものは継続利用する。

るものは継続利用する。

- ・これまでピア・サポート活動が行われてない、ピア・サポートに十分習熟したものが少ない地域でも行えるよう、相談員のように利用者の幅広い相談への対応を行えるピア・サポート（ピアスペシャリスト）ではなく、自身の体験を生かして行うピア・サポートを想定する。
- ・受け入れが進まない理由の一つである医療機関のピア・サポートへの理解不足を解消するため、自治体や医療機関（がん診療連携拠点病院を想定）とがん体験者が協力して立ち上げるピア・サポートを想定。
- ・平成 23～25 年度厚生労働省委託事業では触れられていないピア・サポーターの傷つきを防ぐための考え方（バウンダリー）を導入する。

上記の方針に基づき「ピア・サポーター養成テキスト」を作成した。テキストは以下の章立てで構成されている

1. ピア・サポートとは
2. ピア・サポーターの役割と活動指針
3. 相手を大切にすること、自分を大切にすること -バウンダリーについて
4. ピア・サポーターとして身につけておきたいコミュニケーションスキル
5. ピア・サポートの活動と実践 -グループでのピア・サポート活動
6. がんサロンで起こりうる事例と対応のヒント
7. ピア・サポート活動のために医療者ができること
8. 自治体単位で行うこと

平成 23～25 年度厚生労働省委託事業で作成されたテキストと比較して、4 章、7 章、8

章が新しく追加された。また6章は平成23～25年度事業で開発されたDVD動画をそのまま活用する。一方、がん医療に関する知識、情報は大幅に削除した（医療相談を行うわけではなく、自分自身の体験の専門家としてピア・サポート活動を行うため）。

開発されたテキストに基づき、研修プログラムの開発も行った。実施可能性を考慮し以下のような2日間のプログラムとした。また各都道府県で開催する際は、開催協力する医療機関のスタッフとピア・サポーターがペアで参加する前提とし、それぞれに向けたプログラムを作成した。

1日目	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・ピア・サポートってなに？ ・ピア・サポーターの役割と活動指針 	
がん体験者むけ	医療従事者むけ
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を語る* 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や医療機関が支援できること
<ul style="list-style-type: none"> ・がん診療の基礎知識と情報提供の注意点 	
2日目	
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよいコミュニケーションのために 	
<ul style="list-style-type: none"> ・1対1のサポートを想定したロールプレイ** 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの見学
<ul style="list-style-type: none"> ・グループファシリテートのために*** 	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返りと報告 	

*グループワーク、**ロールプレイ、***動画を用いた講義、そのほかはスライドに基づく講義

平成31年2月9日、10日に東京で上記プログラムに基づくピア・サポート養成研修を試験的に実施した。45名（がん体験者25名、医療従事者20名）が参加した。

C. 考察

テキスト並びに研修プログラムを開発し、試験的に研修会を実施した。大きな問題は指摘されなかったが、以下の改善点、検討点がリストアップされた。

- ・研修会開催のためのマニュアルが必要
- ・バウンダリーを強調するため独立した単元とする
- ・双方の理解を深めるため、がん体験者枠での参加者も医療従事者向けプログラムを聴

講する

- ・医療従事者向けプログラムは参加者の困りごとを聞くなど双方向性の時間を増やす
- ・ロールプレイの時間を増やし振り返りの時間を持つ、合わせてロールプレイ後に医療従事者のみで話し合う時間を持つ
- ・がんサロンのグループファシリテートはやや上級スキルのため講義のみで技術を伝えるのが難しい。一方でがんサロンを中心に病院内のピア・サポートが進む可能性も高く、どの程度研修で扱うかを検討する必要がある。

今後これらについて改善、検討を行う必要があると思われる。

また、今回は全国から関心があるものを募集して研修を行ったため、ピア・サポート開催実績の少ない都道府県での予備的開催も必要と思われる。